

商工会議所L O B O（早期景気観測）

—平成13年6月調査結果—

（平成13年7月2日）

○調査期間：平成13年6月19日～25日

○調査対象：全国の396商工会議所が2617業種組合等にヒアリング
（内訳）建設業 387 製造業 634 卸売業 237
小売業 751 サービス業 608

○調査項目：今月の売上・採算・業況等についての状況（DI値を集計）
及び、業界として当面する問題等

※ DI値について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

DI = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)
業況・採算：(好転) - (悪化) 売上：(増加) - (減少)

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL:03-3283-7844/7836
E-Mail:sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は、日商ホームページ (<http://www.jcci.or.jp>)でもご覧になれます。

【平成13年6月調査結果のポイント】

大幅な業況悪化。強まる先行き不安の声

- 6月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、全業種でマイナス幅が前月水準に比べて拡大したことから、前月水準（▲48.3）よりマイナス幅が4.7ポイント拡大して▲53.0となった。昨年10月以降7ヵ月連続してマイナス幅が拡大した後、先月は一旦、若干（0.3ポイント）マイナス幅が縮小したが、今月は再び拡大となった。マイナス幅が4.7ポイントも拡大したのは、平成9年12月以来。また、全産業合計の業況DI値▲53.0は、平成11年2月以来の低水準。業況の悪化傾向は変わらず、不透明感が広がっており、地域経済や足元の景況感はさらに厳しい状況にある。

建設業では、引き続き「公共工事予算の削減で、大手ゼネコンの受注競争は激化し、安値受注のしわ寄せが下請け企業に向けられている」（一般工事）、「仕事の絶対量が少ないために価格競争が激しく、原価割れの仕事もせざるを得ない」（電気工事）、「地域内で資金繰りの悪化等による事業整理、廃業、倒産等が出始めている」（一般工事）など厳しい状況を訴える声が多く寄せられている。また、今後の政策運営に関し、「公共工事の見直し等の構造改革により先行き不透明」（一般工事）、「秋口の補正予算に期待しているが、今後の見通しが見えない」（一般工事）など不安視する声も寄せられている。

製造業では、昨年11月以降、業況の悪化傾向が続いており、特に今月は、前月水準からのマイナス幅拡大が9.1ポイントと大きく落ち込んだ。「6月に入って業況は急速に悪化」（非製鋼鋼材製造）、「納入単価の切り下げにより収益が圧迫」（金属加工機械製造）、「業況の悪化傾向は続いている。売上高からみても従業員については、やや過剰となってきている」（電子部品製造）、「新規受注が入らない」（鉄素形材製造）、「値下げに加え受注減少で悪化が著しい。海外調達の影響が出始めている」（暖房装置・配管工専用附属品製造）など厳しさを訴える声も寄せられている。

卸売業では、「低価格の輸入商品に押されて販売不振が続いており、消費マインドの低下とのダブルパンチで大変厳しい経営環境にある」（衣服・日用品卸）、「大型店による超安値商品の販売に対抗しきれなくなった」（肥料卸）、「メーカーと小売業大手との直取引が進むと思われ、先行き不安」（農畜産水産物卸）など、厳しい業況を訴える声も多く寄せられている。

小売業では、大型店を中心に、「好天に恵まれ、夏物商品が好調」（商店街、百貨店）、「中元の早期優待受注が好評で売上増」（百貨店）といった声がある一方、引き続き、消費低迷や近隣大型店の影響による売上減などの指摘が多く寄せられたほか、「家電リサイクル法の影響で、4月以降、家電の売上が右肩下がりで、ボーナス商戦も期待できない」（各種商品小売）との声もある。

サービス業では、「夜の出前や予約が少なくなった」（すし店）、「この先の好材料が見当たらない」（ソフトウェア）、「外食チェーン店の安値競争が徐々に効いてきた」（一般飲食店）、「派遣需要がやや減少気味」（人材派遣）、「宿泊の客単価が低下。宴会飲食部門も低価格販売が続いている」（旅館）など、厳しい業況を訴える声も多く寄せられている。

売上面では、小売業を除く全業種でマイナス幅が前月水準に比べて拡大したことから、全産業合計の売上DIはマイナス幅が3.1ポイント拡大して▲45.6と、2ヵ月連続のマイナス幅拡大となった。採算面でも、小売業を除く他の全業種でマイナス幅が前月水準に比べて拡大したことから、全産業合計の採算DIはマイナス幅が4.0ポイント拡大して▲46.8と、3ヵ月ぶりの拡大となった。

- 向こう3ヵ月（7月～9月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI（今月比ベース）が▲46.5と、昨年同時期の先行き見通し（▲25.1）に比べて極めて厳しい見方となっており、先行きへの不安が強まっている。

- 景気に関する声、当面する問題としては、公共工事の見直しを含めた政府の構造改革議論の行方、個人消費についての関心が高い。

【業況についての判断】

○ 全産業合計の業況DI（前年同月比ベース）は、全業種でマイナス幅が前月水準に比べて拡大したことから、前月水準（▲48.3）よりマイナス幅が4.7ポイント拡大して▲53.0となった。昨年10月以降7ヵ月連続してマイナス幅が拡大した後、先月は一旦、若干（0.3ポイント）マイナス幅が縮小したが、今月は再び拡大となった。マイナス幅が4.7ポイントも拡大したのは、平成9年12月以来。また、全産業合計の業況DI値▲53.0は、平成11年2月以来の低水準。業況の悪化傾向は変わらず、不透明感が広がっており、地域経済や足元の景況感はさらに厳しい状況にある。

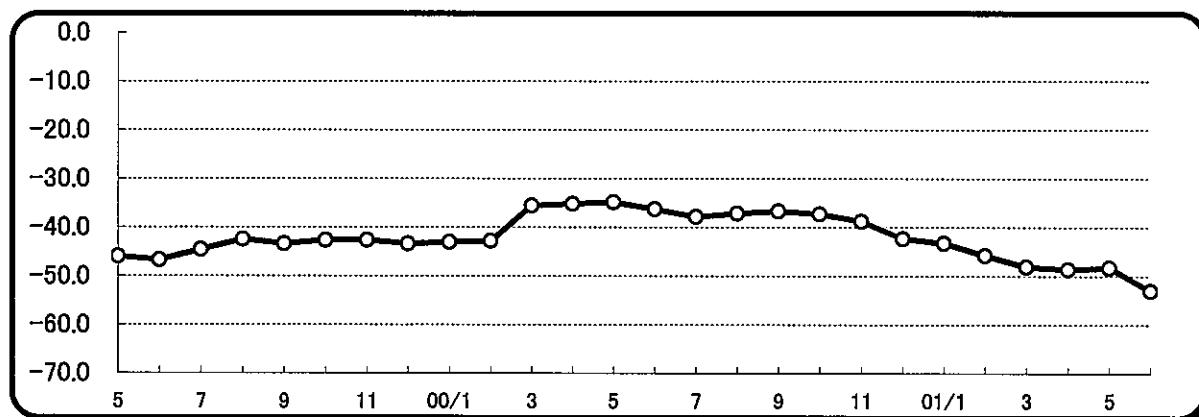
○ 向こう3ヵ月（7月～9月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI（今月比ベース）が▲46.5と、昨年同時期の先行き見通し（▲25.1）に比べて極めて厳しい見方となっており、先行きへの不安が強まっている。

業況DI（前年同月比）の推移

	13年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7～9月
全産業	▲43.3	▲45.8	▲48.1	▲48.6	▲48.3	▲53.0	▲46.5 (▲25.1)
建設	▲57.5	▲56.7	▲60.0	▲57.7	▲59.3	▲62.2	▲56.8 (▲33.2)
製造	▲31.0	▲38.0	▲44.2	▲46.7	▲46.8	▲55.9	▲52.3 (▲19.7)
卸売	▲45.6	▲48.8	▲52.8	▲54.8	▲51.3	▲53.9	▲43.0 (▲33.5)
小売	▲48.0	▲50.3	▲50.1	▲50.7	▲47.6	▲49.9	▲41.1 (▲28.1)
サービス	▲40.3	▲40.2	▲39.6	▲38.7	▲41.9	▲46.3	▲40.9 (▲18.3)

※「先行き見通し」は当月に比した向こう3ヵ月の先行き見通しDI
（ ）内は昨年6月の先行き見通しDI<以下同じ>

≪業況DI（全産業・前年同月比）の推移≫



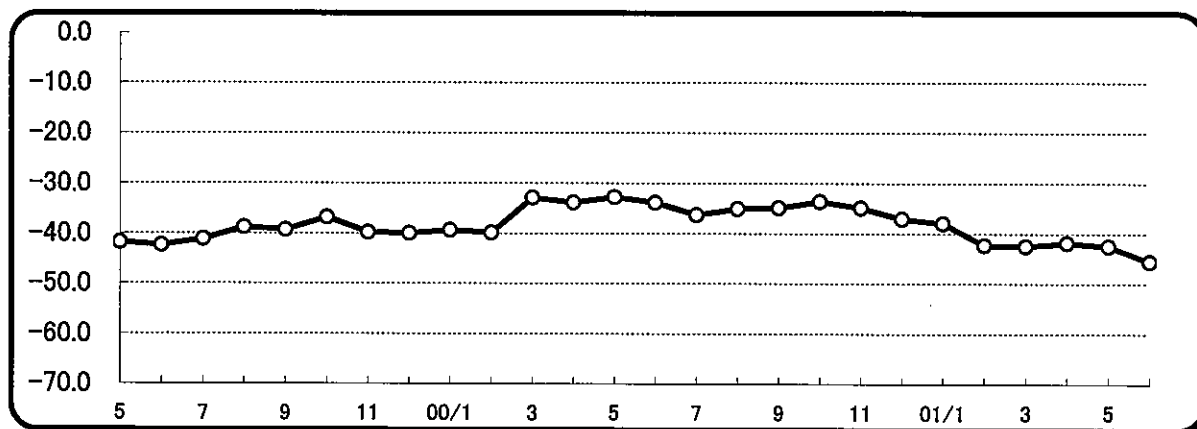
【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

- 売上面では、小売業を除く全業種でマイナス幅が前月水準に比べて拡大したことから、全産業合計の売上DIはマイナス幅が3.1ポイント拡大して▲45.6と、2ヵ月連続のマイナス幅拡大となった。
- 向こう3ヵ月（7月～9月）の先行き見通しについては、全産業合計の売上DI（今月比ベース）が▲39.0と、昨年同時期の先行き見通し（▲19.2）に比べて極めて厳しい見方となっている。

売上（受注・出荷）DI（前年同月比）の推移

	13年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7～9月
全産業	▲ 38.0	▲ 42.3	▲ 42.5	▲ 41.9	▲ 42.5	▲ 45.6	▲ 39.0 (▲ 19.2)
建設	▲ 47.6	▲ 52.5	▲ 53.5	▲ 51.6	▲ 53.1	▲ 56.1	▲ 46.6 (▲ 25.3)
製造	▲ 23.7	▲ 28.9	▲ 33.4	▲ 39.2	▲ 38.9	▲ 46.7	▲ 44.7 (▲ 12.2)
卸売	▲ 39.4	▲ 43.8	▲ 44.2	▲ 44.5	▲ 46.2	▲ 47.9	▲ 37.0 (▲ 22.5)
小売	▲ 45.9	▲ 51.0	▲ 48.5	▲ 45.6	▲ 44.5	▲ 42.6	▲ 34.7 (▲ 26.3)
サービス	▲ 36.6	▲ 38.7	▲ 36.6	▲ 31.6	▲ 35.3	▲ 39.4	▲ 33.2 (▲ 12.3)

≪売上（受注・出荷）DI（全産業・前年同月比）の推移≫



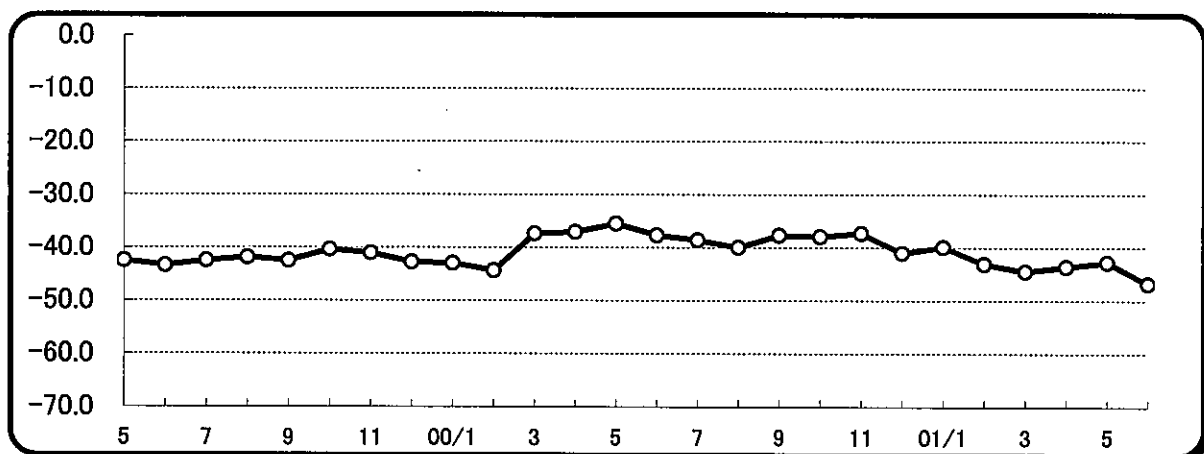
【採算の状況についての判断】

- 採算面では、小売業を除く他の全業種でマイナス幅が前月水準に比べて拡大したことから、全産業合計の採算D Iはマイナス幅が4.0ポイント拡大して▲46.8と、3ヵ月ぶりの拡大となった。
- 向こう3ヵ月(7月～9月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I(今月比ベース)が▲40.2と、昨年同時期の先行き見通し(▲26.5)に比べて非常に厳しい見方となっている。

採算D I (前年同月比) の推移

	13年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7～9月
全産業	▲ 39.9	▲ 43.1	▲ 44.5	▲ 43.6	▲ 42.8	▲ 46.8	▲ 40.2 (▲ 26.5)
建設	▲ 53.8	▲ 57.8	▲ 59.4	▲ 58.4	▲ 58.5	▲ 61.1	▲ 52.7 (▲ 37.2)
製造	▲ 33.6	▲ 38.8	▲ 42.5	▲ 43.7	▲ 43.8	▲ 50.5	▲ 44.7 (▲ 24.4)
卸売	▲ 36.3	▲ 38.9	▲ 46.6	▲ 46.5	▲ 38.5	▲ 49.1	▲ 38.8 (▲ 25.4)
小売	▲ 44.2	▲ 46.3	▲ 44.2	▲ 42.9	▲ 41.1	▲ 39.1	▲ 35.1 (▲ 27.5)
サービス	▲ 33.2	▲ 35.5	▲ 35.5	▲ 32.4	▲ 34.5	▲ 41.2	▲ 33.2 (▲ 20.4)

《採算D I (全産業・前年同月比) の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比) の推移

※平成12年7月期から調査実施

	13年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7~9月
全産業	▲ 26.8	▲ 27.9	▲ 30.3	▲ 29.0	▲ 30.1	▲ 32.4	▲ 29.9
建設	▲ 34.7	▲ 34.4	▲ 35.9	▲ 37.0	▲ 39.2	▲ 43.2	▲ 40.7
製造	▲ 24.5	▲ 26.9	▲ 30.7	▲ 28.8	▲ 29.0	▲ 36.6	▲ 34.8
卸売	▲ 20.9	▲ 23.7	▲ 25.4	▲ 24.4	▲ 29.5	▲ 27.8	▲ 29.2
小売	▲ 28.5	▲ 28.8	▲ 29.0	▲ 29.5	▲ 26.0	▲ 26.8	▲ 24.9
サービス	▲ 24.3	▲ 24.7	▲ 29.5	▲ 24.0	▲ 29.2	▲ 26.6	▲ 22.4

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】卸売業とサービス業を除き悪化超感が強まる。特に、建設業では4ヵ月連続で悪化超感が強まる。

仕入単価D I (前年同月比) の推移

	13年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7~9月
全産業	▲ 2.1	▲ 1.7	0.3	4.6	3.4	1.5	▲ 0.5 (▲ 1.8)
建設	▲ 3.5	▲ 4.6	0.0	2.5	6.1	6.5	1.0 (0.7)
製造	▲ 5.6	▲ 4.4	▲ 7.8	▲ 3.5	▲ 3.3	▲ 4.3	▲ 6.1 (▲ 8.0)
卸売	6.3	1.2	4.3	9.7	5.8	▲ 2.4	▲ 1.2 (3.5)
小売	4.8	6.4	8.5	13.6	9.2	7.7	7.5 (3.0)
サービス	▲ 9.1	▲ 7.8	▲ 2.3	1.3	1.0	▲ 2.1	▲ 5.7 (▲ 4.7)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】建設業を除く全業種で下落超感弱まる。他方、建設業では4ヵ月連続で下落超感が強まる。

【先行き見通しD I】建設業、製造業および小売業で、昨年同時期に比べ下落超感が強まる見通し。

従業員D I（前年同月比）の推移

	13年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7～9月
全産業	▲ 10.6	▲ 11.1	▲ 12.1	▲ 11.5	▲ 12.8	▲ 15.7	▲ 14.4 (▲ 9.0)
建設	▲ 22.6	▲ 22.4	▲ 22.5	▲ 28.0	▲ 28.9	▲ 31.1	▲ 28.1 (▲ 20.1)
製造	▲ 10.0	▲ 11.2	▲ 16.1	▲ 11.9	▲ 14.9	▲ 21.8	▲ 18.7 (▲ 9.4)
卸売	▲ 15.0	▲ 19.1	▲ 13.6	▲ 14.8	▲ 12.2	▲ 19.4	▲ 16.3 (▲ 7.8)
小売	▲ 8.6	▲ 6.0	▲ 6.5	▲ 5.9	▲ 7.5	▲ 8.3	▲ 11.1 (▲ 8.1)
サービス	▲ 3.9	▲ 6.2	▲ 6.7	▲ 5.1	▲ 6.1	▲ 5.4	▲ 2.5 (▲ 2.4)

$$D I = (\text{不足の回答割合}) - (\text{過剰の回答割合})$$

【前年同月比D I】 サービス業を除く全業種で過剰超感が強まる。特に、建設業では4ヵ月連続で過剰超感が強まる。

【先行き見通しD I】 全業種で、昨年同時期に比べて過剰超感が強まる見通し。

【平成13年6月の景気キーワード】

○ 先行き不透明感

「少し明るくなりそうな気配はする」(市原・一般工事)、「航空機産業は、外国からの受注増等で先行きが明るい」(各務原・輸送用機械器具製造)、「中元商戦に売上増を期待」(米沢・商店街)といった声がある一方で、先行きの業況に関する不透明感の指摘が多く寄せられている。建設業からは、「公共工事の見直し等の構造改革により先行き不透明」(須賀川・一般工事)、「秋口の補正予算に期待しているが、今後の見通しが見えない」(帯広・一般工事)などの声が寄せられている。製造業からは、「6月に入って業況は急速に悪化」(貝塚・非製鋼鋼材製造)、「業況の悪化傾向は続いている。売上高からみても従業員については、やや過剰となってきた」(伊那・電子部品製造)、「新規受注が入らない」(長岡・鉄素形材製造)、「値下げに加え受注減少で悪化が著しい。海外調達の影響が出始めている」(姫路・暖房装置、配管工用附属品製造)といった声がある。また、卸売業・小売業・サービス業からは、「メーカーと小売業大手との直取引が進むと思われ、先行き不安」(長野・農畜産水産物卸)、「家電リサイクル法の影響で、4月以降、家電の売上が右肩下がりで、ボーナス商戦も期待できない」(勝田・各種商品小売)、「この先の好材料が見当たらない」(名古屋・ソフトウェア)、「派遣需要がやや減少気味」(長野・人材派遣)などの声が寄せられている。

○ 単価下落

建設業から「公共工事予算の削減で、大手ゼネコンの受注競争は激化し、安値受注のしわ寄せが下請け企業に向けられている」(静岡・一般工事)、「仕事の絶対量が少ないために価格競争が激しく、原価割れの仕事もせざるを得ない」(上越・電気工事)との声が寄せられている。製造業からは、「価格の下落が止まらない」(札幌・印刷業)、「納入単価の切り下げにより収益が圧迫」(熊谷・金属加工機械製造)などの声が寄せられている。さらに、卸売業・小売業・サービス業についても、「価格に対してますますシビアな選択を迫られる」(大野・商店街)、「宿泊の客単価が低下。宴会飲食部門も低価格販売が続いている」(札幌・旅館)などの声が寄せられている。

○ 倒産・廃業

長引く低迷や先行き見通しが厳しい影響から、倒産や廃業についてのコメントが目立ってきている。「地域内で資金繰りの悪化等による事業整理、廃業、倒産等が出始めている」(新井・一般工事)、「近畿地域の家具卸業者の相次ぐ倒産により、経営状況が厳しくなっている」(和歌山・家具製造)、「水産加工大手が原材料確保難から倒産し、他社への波及が懸念」(釧路・水産食料品製造)、「老舗問屋が相次いで廃業し、近隣の小規模小売業者への影響大」(湯沢・総合卸)、「業績不振、先行き見通し難から自主廃業する企業が出た」(長岡・繊維品卸)、「商店街の中核であった大型店の倒産・撤退の影響で客足が大幅に減少し、体力の弱い商店が次々と閉店傾向」(和歌山・商店街)といった指摘が寄せられている。

【景気キーワードの推移】

年 月	景気キーワード		
13年 4月	先行き不透明感	単価下落	
13年 5月	先行き不透明感	単価下落	
13年 6月	先行き不透明感	単価下落	倒産・廃業

※景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関する自由回答をまとめたもの。

(参考)

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	業況・売上・採算D1とも2ヵ月連続で前月水準に比べてマイナス幅が拡大している。引き続き「公共工事予算の削減で、大手ゼネコンの受注競争は激化し、安値受注のしわ寄せが下請け企業に向けられている」(一般工事)、「仕事の絶対量が少ないために価格競争が激しく、原価割れの仕事もせざるを得ない」(電気工事)、「地域内で資金繰りの悪化等による事業整理、廃業、倒産等が出始めている」(一般工事)など厳しい状況を訴える声が多く寄せられている。また、今後の政策運営に関し、「公共工事の見直し等の構造改革により先行き不透明」(一般工事)、「秋口の補正予算に期待しているが、今後の見通しが見えない」(一般工事)など不安視する声も寄せられている。
製 造	業況・売上・採算D1とも前月水準に比べてマイナス幅が大幅に拡大している。特に、業況・採算D1については、8ヵ月連続の拡大となっている。「6月に入って業況は急速に悪化」(非製鋼鋼材製造)、「納入単価の切り下げにより収益が圧迫」(金属加工機械製造)、「業況の悪化傾向は続いている。売上高からみても従業員については、やや過剰となってきた」(電子部品製造)、「新規受注が入らない」(鉄素形材製造)、「値下げに加え受注減少で悪化が著しい。海外調達の影響が出始めている」(暖房装置・配管工事用附属品製造)など厳しさを訴える声も寄せられている。
卸 売	業況・売上・採算D1とも前月水準に比べてマイナス幅が拡大しており、特に、売上D1は6ヵ月連続の拡大となっている。「低価格の輸入商品に押されて販売不振が続いており、消費マインドの低下とのダブルパンチで大変厳しい経営環境にある」(衣服・日用品卸)、「大型店による超安値商品の販売に対抗しきれなくなった」(肥料卸)、「メーカーと小売業大手との直取引が進むと思われ、先行き不安」(農畜産水産物卸)など、厳しい業況を訴える声が多く寄せられている。
小 売	売上・採算D1は4ヵ月連続で前月水準に比べてマイナス幅が縮小、業況は2ヵ月ぶりにマイナス幅が拡大している。大型店を中心に、「好天に恵まれ、夏物商品が好調」(商店街、百貨店)、「中元の早期優待受注が好評で売上増」(百貨店)といった声がある一方、引き続き、消費低迷や近隣大型店の影響による売上減などの指摘が多く寄せられたほか、「家電リサイクル法の影響で、4月以降、家電の売上が右肩下がり、ボーナス商戦も期待できない」(各種商品小売)との声もある。
サービス	業況・売上・採算D1とも2ヵ月連続で前月水準に比べてマイナス幅が拡大している。「夜の出前や予約が少なくなった」(すし店)、「この先の好材料が見当たらない」(ソフトウェア)、「外食チェーン店の安値競争が徐々に効いてきた」(一般飲食店)、「派遣需要がやや減少気味」(人材派遣)、「宿泊の客単価が低下。宴会飲食部門も低価格販売が続いている」(旅館)など、厳しい業況を訴える声も多く寄せられている。

(参考)

【ブロック別概況】

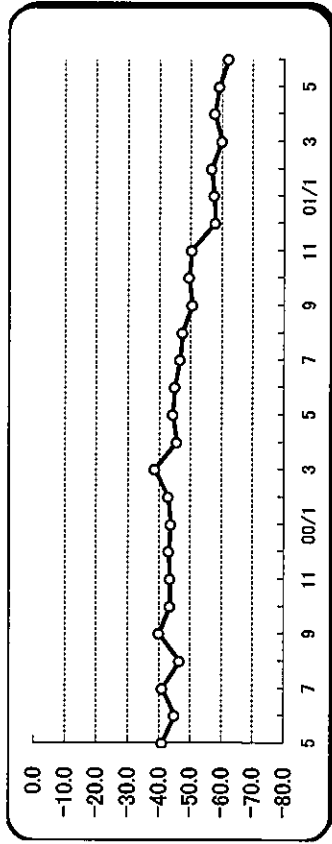
- ブロック別の業況DI（前年同月比ベース）を見ると、全産業合計では全ブロックとも引き続きマイナス水準での推移となっている。ブロック別に見ると、北海道、近畿、四国を除く各ブロックで、前月水準に比べてマイナス幅が拡大しており、特に、関東では11.4ポイント、北陸信越では9.0ポイント、東海では8.5ポイントと、それぞれ大幅にマイナス幅が拡大している。
- ブロック別の向こう3ヵ月（7月～9月）の業況の先行き見通しは、全産業合計では、引き続きマイナス水準。また、全ブロックにおいて、昨年同時期の先行き見通しに比べて非常に厳しい見方となっている。

ブロック別・全産業業況DI（前年同月比）の推移

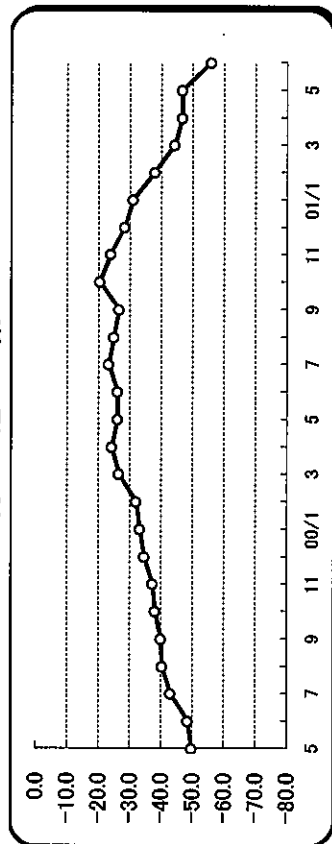
	13年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7～9月
全 国	▲ 43.3	▲ 45.8	▲ 48.1	▲ 48.6	▲ 48.3	▲ 53.0	▲ 46.5 (▲ 25.1)
北 海 道	▲ 43.1	▲ 40.7	▲ 40.3	▲ 44.5	▲ 43.5	▲ 39.8	▲ 38.3 (▲ 30.1)
東 北	▲ 45.3	▲ 54.8	▲ 53.3	▲ 50.9	▲ 50.0	▲ 54.0	▲ 43.1 (▲ 24.2)
北陸信越	▲ 47.9	▲ 36.4	▲ 45.7	▲ 48.8	▲ 43.5	▲ 52.5	▲ 43.6 (▲ 19.5)
関 東	▲ 41.8	▲ 41.6	▲ 46.9	▲ 41.1	▲ 39.5	▲ 50.9	▲ 44.2 (▲ 19.5)
東 海	▲ 37.0	▲ 45.4	▲ 46.7	▲ 53.3	▲ 49.1	▲ 57.6	▲ 52.5 (▲ 23.1)
近 畿	▲ 43.0	▲ 53.2	▲ 51.5	▲ 56.2	▲ 60.3	▲ 58.4	▲ 57.8 (▲ 39.3)
中 国	▲ 42.8	▲ 45.3	▲ 50.6	▲ 49.7	▲ 54.2	▲ 58.8	▲ 48.0 (▲ 28.8)
四 国	▲ 57.8	▲ 58.6	▲ 51.4	▲ 60.9	▲ 57.4	▲ 54.9	▲ 44.2 (▲ 23.7)
九 州	▲ 39.5	▲ 41.2	▲ 45.8	▲ 44.6	▲ 47.2	▲ 48.7	▲ 42.8 (▲ 20.4)

業況D I (前年同月比) の推移 (全国)

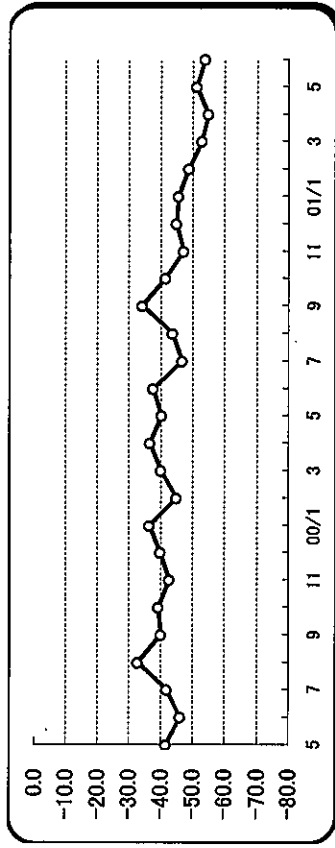
建設業



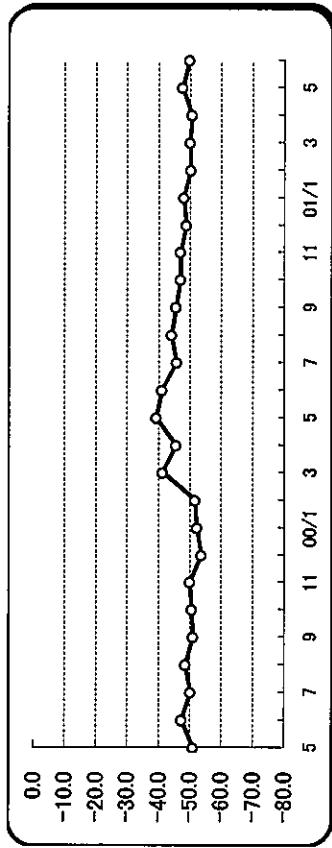
製造業



卸売業



小売業



サービス業

